

平成19年度事業計画

1. 基本方針

新十和田市の誕生から二年、市街地の観光資源に加え、国際的にも魅力ある奥入瀬溪流・十和田湖・八甲田などをも含めた広域的観光事業の展開が求められている現状から、平成18年3月に策定された十和田市観光基本計画を踏まえ、事業目的を同じくする旧十和田湖町域にある任意観光協会との統合を視野に入れ、地域特性を失わせない配慮を大前提とした一層の協議から、活力ある観光事業の展開を目指して参りたい。

特に、既存事業である十和田市春まつり「駒街道さくらさく」事業については、日本の道百選十和田市官庁街通り（駒街道）の1.1キロの桜と赤松、そして花壇の花々が織り成す通りのコントラストは、他に類を見ないすばらしい景観であり、県内外からの来訪者も微増ながら年々増えている傾向にあることから、当市滞在型観光としての奥入瀬溪流・十和田湖・八甲田などの景勝地への観光ルート開発、さらには隣接県への観光ルート開発などについて早急に検討する必要があります。

さらに、2010年東北新幹線（仮称）七戸駅の開業が予定されていることから、当市観光資源の磨き上げによって客足を向けさせ、回遊していただくための観光ルート作りについても検討を急がなくてはなりません。また、中心市街地のにぎわいを取り戻すためのイベントと事業についても、行政や地元の各商店街ひいては業種を越えた各事業所からの事業参画をいただきながら、地域活性化のための「にぎわい創出」を進めて参ります。

また、今年度も、活力あるイベント観光への取組みによる地域活性化を念頭に、地域連携を図りながら事業遂行に努める所存です。

2. 実 施 事 業

1 春・夏・秋まつり開催事業

（1）春まつり

① 観桜会

4月20日から4月30日までの11日間にわたり、官庁街通り（駒街道）・中央公園を主会場として観桜会を開催する。官庁街通り（駒街道）では県内外からの観光客へのおもてなしとして「駒街道さくらさく」イベント、中央公園は地域住民へ花見会場としての解放、4月21日・22日には中央公園緑地にて馬産地の歴史を活かした桜流鏝馬、4月28日・29日には第7回目を迎える「とわだ Yosakoi 夢まつり」を十和田市のシンボルロードである官庁街通り（駒街道）で企画するなど、当市観光資源を最大限有効活用しながら、地域外からの誘客を目指す。

② 太素祭

新渡戸傳翁（親子三代に継続）の三本木原開拓に端を発し、安政6年（1859年5月4日）の「稻生川上水」を祝い、太素祭を開催する。その中で各種舞台行事や、産馬通りの歩行者天国とその有効活用によるにぎわいの創出を図る。

また、新渡戸家の偉業と顕彰、市民の誇りを風化させないため、十和田市開拓ゆかりの史跡を巡る「太素ウォーク」を過去6回実施してきたが、引き続き、十和田市の開祖新渡戸傳翁始め、親子三代による稻生川上水の意義やその価値、また都市計画のルーツと言われる基盤の目状の十和田市都市計画などについて考えていただきたいことから、「水土里の路・疏水百選ウォーキング」とサブタイトルを付けて「太素ウォーク2007」

を実施する。

さらに、境内行事についても見直しを図りながら、境内はもちろんのこと産馬通りのにぎわい創出についても検討を進めていきたい。加えて、来る20年度には十和田市開拓150周年を迎えることから、関係各位のご協力の下に新たな事業展開も考えていきたい。

(2) 夏まつり

第50回大会となる花火大会をメイン行事とし、同時に官庁街通り（駒街道）では歩行者天国による夏の夜店を楽しんでいただく。また、これまでの花火大会当日の天候についても、統計上との兼ね合いから、実施日を昨年を引き続き8月14日開催としながら、花火大会のオープニングイベントも企画し、周辺地域からの誘客・集客につなげたい。

(3) 秋まつり

十和田市最大のイベントとして、9月の第2金・土・日曜日の3日間開催する。

※（今年は9月7日・8日・9日）

初日は、日中の市内目抜き通り（三本木大通り）での合同運行、また、夜は官庁街通り（駒街道）で「夜まつりかだつて広場」として、市民参加型の流し踊り・みこし等の運行・実施。中日は（社）十和田青年会議所主管による「お祭り広場」のイベントの開催。最終日は、合同運行終了後のにぎわいを創出するため、入口広場を利用したイベントを開催する。

なお、本年度においても十和田市秋まつりの独自性を醸し出すために、時代絵巻を題材とした山車・太鼓車製作補助の協力が得られることから、昨年に引き続き参加団体の協力のもとに一層の山車・太鼓車のグレードアップを目指したい。

さらには一昨年、（社）十和田青年会議所創立50周年記念事業と連携し「十和田囃子」が創作された。ついては、当協会も歩調を合わせながら、本年度の各種まつりにおいて「十和田囃子」が定着するよう支援していきたい。

2 一般事業及び行事開発

(1) 官庁街通り（駒街道）・駒っこ広場の活用策

イベントの定期開催を通じ、にぎわいを創出する。

①フリーマーケットの開催

②園児や小学生・中学生・高校生やアマチュアバンド等による演奏会の開催

③「とわだ Yosakoi 夢まつり」の実施

(2) 冬のイベント

冬の官庁街通り（駒街道）を彩るイルミネーションの点灯について、引き続き市民の憩いの通りとしての支援をする。

また十和田市飲食業協会とタイアップし、「夜のまち」の活性化を図ることを目的に、雪見ラリー開催の支援・協力をする。

(3) 郷土芸能の普及宣伝

地域に古くから伝わる伝統芸能の承継保護、普及と宣伝及び後継者の育成、さらには披露できる場の提供、関係団体への支援協力に努める。

(4) まつりイベントの活性化対策

秋まつりの振興と活性化を図るため、十和田市独自の山車・太鼓車の自作による製作を推進するとともに、初日夜の官庁街通り（駒街道）での「流し踊り」、「みこし」等の参加を奨励し、市民参加型イベントとしての定着化を図る。

(5) 物産品の普及宣伝

十和田市物産協会とタイアップして地元物産品を広く奨励宣伝し、消費拡大に努める。

(6) 郷土史跡めぐり

十和田市に残る未開発観光地の開発とともに、郷土遺産の保存育成を広く観光開発機関に働きかけるため、関連団体との連携のもとに、市内の主要史跡めぐりを実施する。

(7) 関係団体との連絡協調

関係団体との連絡を密にして、情報収集等に努め、相互に協力・支援する。

(8) 十和田市観光の情報発信

①十和田市観光PRのための、イベント行事カレンダーの販売支援を行なう。

②観光協会ホームページの充実化を図る。

3 調査研究事業

(1) 東北新幹線（仮称）七戸駅の駅舎名の検討

(2) 一昨年までの専門家派遣事業からの指導要件の洗い直しから、今後の協会運営への付加価値となり得る事業（滞在型観光・体験型観光）の模索検討。

(3) 十和田市観光基本計画の実現に向けての調査研究

①馬・駒にちなんだ生活空間・文化の創造

②潤いのある景観づくりと憩い・くつろぎの場としてのイメージアップ作り

③イベント・コンベンション（会議）の推進

④観光関連産業の振興及び人材の育成

⑤十和田湖観光協会と十和田湖温泉郷観光協会との統合に向けた具体的協議の推進と観光資源の魅力再発見